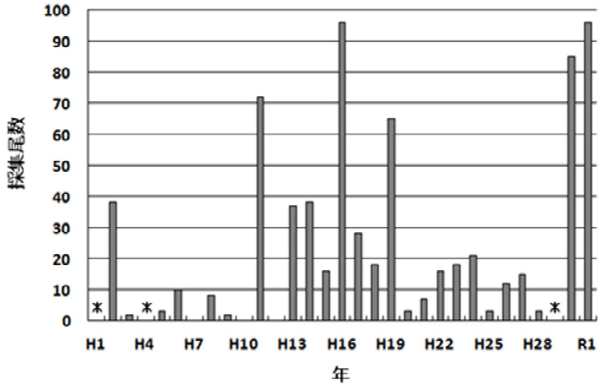
イセエビ幼生の来遊が高水準

当分場では、人工海藻を植え込んだ採集器具5器を白浜漁港板戸地区の岸壁に垂下し、これを週に数回引き揚げ、付着したイセエビ幼生を計数する調査を実施しています。これは、孵化後約1年間、沖合域で浮遊生活していたフィロゾーマ幼生がプエルルス幼生に変態後、沿岸域に来遊し、海藻等に着底する生態を利用した採集法です。年間採集尾数はその年に当地に補給された幼生の資源量を表す指標と考えられています。

令和元年1～12月の年間採集尾数は合計96尾（最盛期は7月の51尾）で、採集記録のある平成元年以降では最高の採集尾数となりました。主採集時期である6～9月の採集尾数は合計82尾、同期間の1日当たりの平均採集尾数1.46尾/日は、どちらも平成元年以降では3番目と高水準でした。また、今年の特徴として、主採集時期を過ぎた10、11月にもプエルルス幼生が採集されたことが挙げられます。黒潮流路が伊豆半島に接岸しているA、N型の年に白浜、石廊崎の採集量が多いとの知見がありますが、今年もA型流路であり、現象的に一致しています。

幼生は着底2年後に刺網で漁獲される大きさ(体長13cm以上)に成長することがわかっているので、その後の生残状況が良ければ2年後の刺網漁は好漁が期待されます。



プエルルス幼生年間採集尾数の経年変動
（＊：採集記録なし）

(参考文献)

成生正彦・山田博一・長谷川雅俊(2006)　南伊豆海域におけるイセエビのプエルルス採集量の変化と黒潮流路との関係，栽培技研，34，13－32

（永倉靖大）